

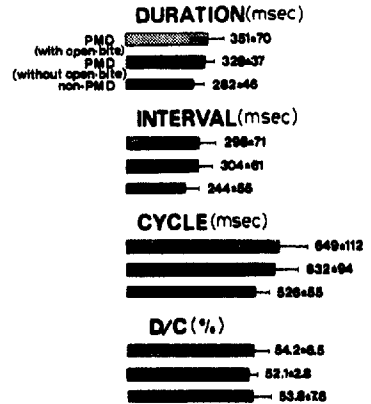
図3は習慣性咀嚼側側頭筋前腹での筋電図のD、I、Cをそれぞれ計測し、それをグラフにしたものである。PMD患者は健康者に比べて各ストロークごとにみた咀嚼運動のD、I、Cの変化が著しく、咀嚼運動が反射的に行われていると考えられている咀嚼中期においてもリズムの乱れが認められた。

図4は、ピーナツ咀嚼時の習慣性咀嚼側側頭筋前腹での咀嚼リズムの最も安定した10ストロークのD、I、Cの平均をグラフにしたものである。D、I、C共にPMD患者の方が健康者よりやや長くなっているが、D/Cは健康者、PMD患者共にほとんど変化が認められなかった。

【考 察】

本実験結果から、PMD患者は健康者に比べて、食物粉碎能力が劣り、咀嚼リズムも不規則であることがわかった。PMD患者と健康者との差異、またPMD患者における開咬の有無による差異からこれら咀嚼能力の低下は、咀嚼筋自体の機能低下とさらに形態的異常が関連しているものと考えられる。

図4



15. PMD患者の語音発語明瞭度について

国立療養所原病院

浜 田 泰 三	山 見 俊 明
星 野 静 雄	山 田 早 苗
升 田 慶 三	平 木 康 彦
和 田 正 士	河 野 七 郎

【緒 言】

PMD患者の会話は、一般に聞き取りにくいと言われているが、正常に比しどの程度の異常があるか明らかにした報告は、現在のところ、ほとんどみあたらない。

〔方 法〕

PMD患者の発音機能を客観的に評価する目的で、異常のないと思われる21～33才の30名の男性を対照として、PMD患者の語音発語明瞭度試験を行い、その明瞭度を比較検討した。PMD患者は、13～23才の Duchenne 型 PMD 患者で、開咬を有する者7名、開咬を有さない者10名の計17名を被験者として選んだ。語音発語明瞭度試験は、日本語の拗音を除く、直音67語を、無作為無意味に配列した表を5種類用意し、これを無作為に選び、被験者に読ませ、Denon 製オープンデッキDH610Sに録音再生し、6名の検者により正しく聞き取れた語の割合の平均を明瞭度として表した。又、文章を読ませ、これを文章明瞭度として評価した。

〔結 果〕

語音発語明瞭度及び文章明瞭度は、図1に示すごとくとく、両者の間に著明な差は生じなかった。PMD患者の開咬の有無、重症度と、これら明瞭度との間には特に相関はみられなかった。次に、日本語の直音67語を、調音方法、調音部位別に分類し、それらの不正音出現率を比較した結果を図2、図3に示す。

調音部位別において、開咬に関与すると思われる両唇音、歯音、歯茎音のうち、歯茎音は開咬を有する者が開咬を有さない者に比し高い出現率を示したが、両唇音、歯音は逆の結果を示した。

〔考 察〕

以上の結果から、開咬の有無、つまり形態的異常は、明瞭度の低下には特に関係なく、他の要因に基づく明瞭度の低下であると考えられる。又、喉腔音は、主に筋組織により構音されることから、喉腔音の著明な不正音出現率は、PMD患者特有の骨格筋の異常に何らかの関係があるものと想像される。発声は、肺機能により発生された呼気が、口腔に送られ、口腔内で舌、口唇、下顎の働きにより調整され作り出されるものである。そこで、PMD患者特有の骨格筋異常を考えた場合、発声に関与する全筋肉は、正常者に比べ、その機能が低下しているものと考えられる。しかし、喉腔音に著明な不正音出現率がみられる様に、個々の音にみられた不正音出現率の差異は、全ての音に共通する筋の機能低下の他に、個々の発音に関与する口腔諸筋のいずれかに、PMD患者特有の機能低下があるものと考えられる。

図1

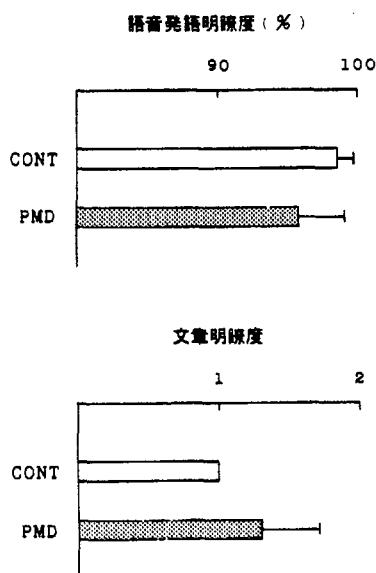


図2

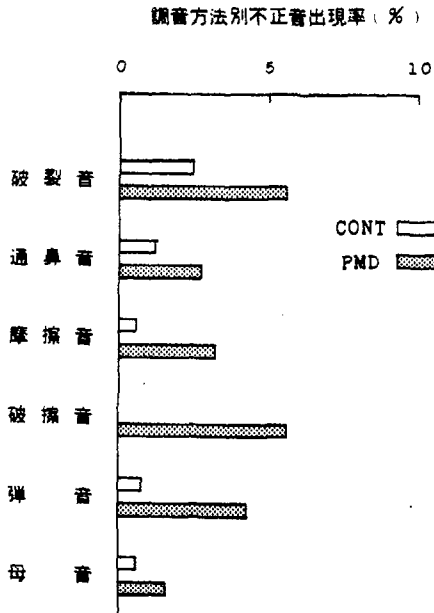
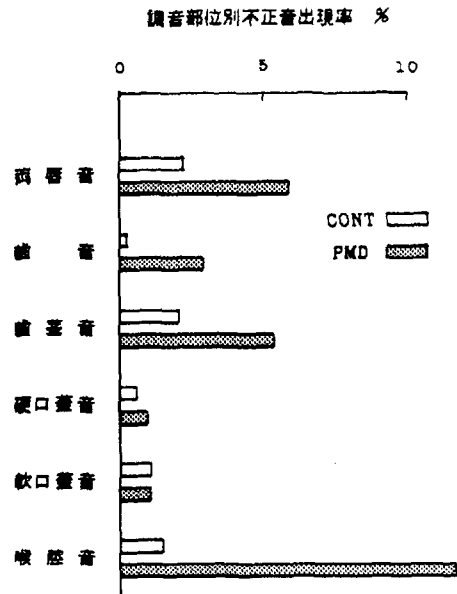


図3



16. 病型別の筋力および拘縮の分布

— Duchenne 型 PMD の残存筋力とその低下度

国立療養所東埼玉病院

鈴木 貞夫 浅野 賢
 熊井 初穂 石原 伝幸
 吉村 正也 井上 満

〔はじめに〕

Duchenne 型 PMD に下肢関節の拘縮あるいは筋力減弱がそれぞれ主因となって歩行不能に陥った症例のいることを Jpn. J. P. T. O. T. 9 巻 8 号で報告した。その後、私共は前者を拘縮強度型（以下、拘縮型と略す）、後者を筋力減弱型（筋減型）と命名し検討を加えてきた。今回、歩行可能な時期より歩行喪失に至った症例について、過去 2 年 10 ヶ月間の拘縮の進行、障害度の進行、その年令的特徴、ADL 能力の低下度、筋力の低下度と脊柱弯曲の変化について検討した

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔緒言〕

PMD 患者の会話は、一般に聞き取りにくいと言われているが、正常に比しどの程度の異常があるか明らかにした報告は、現在のところ、ほとんどみあたらない。